

# プロジェクトマネージャ

## 章別午前問題 第3章

テーマ			出題年度 - 問題番号 (※1, 2)		
計画フェーズ	①	リスクの特定, リスクの評価	R03-10		
リスク分析	②	定性的リスク分析 (1)	H30-11	H27-12	H24-14
			H22-14		
	③	定性的リスク分析 (2)	H28-14		
	④	感度分析	R03-11	H31-10	
	⑤	EMVの計算式	H26-12	H23-12	H21-8
	⑥	EMVの計算問題	R02-10	H30-9	H25-15
リスク対応戦略	⑦	プラスのリスク, マイナスのリスク	H30-10	H28-15	H26-13
			H23-14		
	⑧	リスク対応戦略“強化”	R02-11		
	⑨	リスク対応計画	H21-10		
リスク対応	⑩	リスクへの対応	H31-5		
デルファイ法	⑪	デルファイ法	H17-41		
	⑫	デルファイ法の利用によるリスク抽出	H28-13	H23-13	H21-9

- ※1. 平成14年度～平成20年度のプロジェクトマネージャ試験の午前試験、及び平成21年度～令和3年度のプロジェクトマネージャ試験の午前Ⅱ試験の合計710問より、プロジェクトマネジメントの分野だと考えられるものを抽出。
- ※2. 問題は、選択肢まで含めて全く同じ問題だけではなく、多少の変更点であれば、それも同じ問題として扱っている。

## ■ 計画フェーズ

### ①リスクの特定, リスクの評価

R03-10

問10 JIS Q 21500:2018（プロジェクトマネジメントの手引）によれば、プロセス“リスクの特定”及びプロセス“リスクの評価”は、どのプロセス群に属するか。

ア 管理

イ 計画

ウ 実行

エ 終結

## ■ リスク分析

### ②定性的リスク分析(1)

H30-11, H27-12, H24-14, H22-14

問11 PMBOK ガイド 第 5 版によれば、プロジェクト・リスク・マネジメントでは、定性的リスク分析でリスクの優先順位を査定し、定量的リスク分析でリスクがプロジェクト目標全体に与える影響を数量的に分析する。定性的リスク分析で使用されるものはどれか。

ア 感度分析

イ 期待金額価値分析

ウ デシジョン・ツリー

エ 発生確率・影響度マトリックス

## ■ リスク分析

### ③定性的リスク分析(2)

H28-14

問14 PMBOK によれば、プロジェクトリスクマネジメントにおける定性的リスク分析で実施することのうち、適切なものはどれか。

ア 感度分析によって、プロジェクトに与える影響が大きいリスクを明確にする。

イ 定量的リスク分析の結果に基づいて、リスクの優先順位付けをする。

ウ リスク対応計画に基づいて、発生するおそれがあるリスクを具体的に特定する。

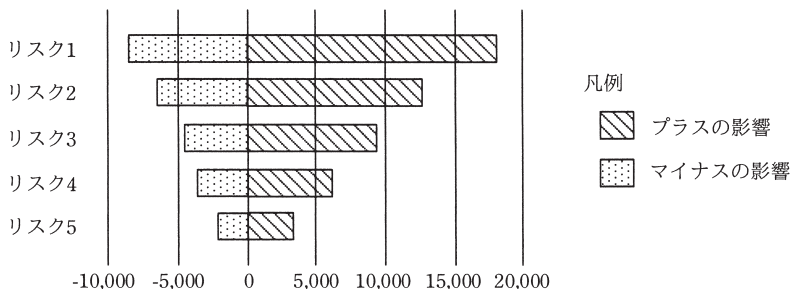
エ リスクの発生確率と影響度を査定した結果に基づいて、リスク登録簿を更新する。

## ■ リスク分析

### ④感度分析

R03-11, H31-10

問11 どのリスクがプロジェクトに対して最も影響が大きいかを判断するのに役立つ定量的リスク分析とモデル化の技法として、感度分析がある。感度分析の結果を示した次の図を何と呼ぶか。



- ア 確率分布
- イ デシジョンツリーダイアグラム
- ウ トルネード図
- エ リスクブレイクダウNSTラクチャ

## ■ リスク分析

### ⑤EMVの計算式

H26-12, H23-12, H21-8

問12 リスクマネジメントにおける EMV（期待金額価値）の算出式はどれか。

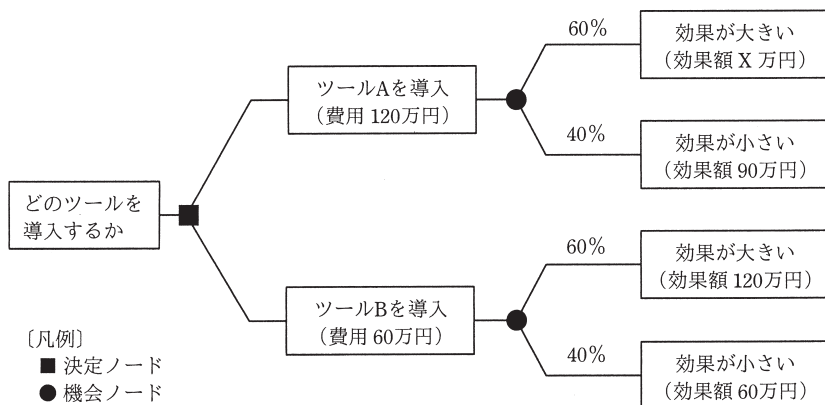
- ア リスク事象発生時の影響金額 × リスク事象の発生確率
- イ リスク事象発生時の影響金額 ÷ リスク事象の発生確率
- ウ リスク事象発生時の影響金額 × リスク対応に掛かるコスト
- エ リスク事象発生時の影響金額 ÷ リスク対応に掛かるコスト

## ■ リスク分析

### ⑥ EMVの計算問題

R02-10, H30-9, H25-15

問10 プロジェクトにどのツールを導入するかを、EMV（期待金額価値）を用いて検討する。デシジョンツリーが次の図のとき、ツール A を導入する EMV がツール B を導入する EMV を上回るのは、X が幾らよりも大きい場合か。



ア 120

イ 150

ウ 200

エ 240

## ■ リスク対応戦略

### ⑦ プラスのリスク、マイナスのリスク

H30-10, H28-15, H26-13, H23-14

問10 PMBOK ガイド 第 5 版のプロジェクト・リスク・マネジメントにおけるリスク対応戦略に関する記述のうち、適切なものはどれか。

ア 強化は、マイナスのリスクに対して使用される戦略である。

イ 共有は、プラスのリスクとマイナスのリスクのどちらにも使用される戦略である。

ウ 受容は、プラスのリスクとマイナスのリスクのどちらにも使用される戦略である。

エ 転嫁は、プラスのリスクに対して使用される戦略である。

問11 PMBOK ガイド 第 6 版によれば、リスクにはプロジェクト目標にマイナスの影響を及ぼす“脅威”と、プラスの影響を及ぼす“好機”がある。リスクに対応する戦略のうち、“好機”に対する戦略である“強化”に該当するものはどれか。

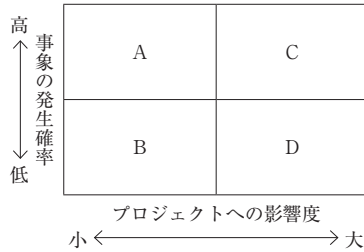
ア アクティビティを予定よりも早く終了させるために、計画よりも多くの資源を投入する。

イ リスク共有のパートナーシップ、チーム、ジョイント・ベンチャーなどを形成する。

ウ リスクに対処するために、時間、資金、資源の量などに関してコンティンジェンシー予備を設ける。

エ リスクを定期的にレビューする以外の行動はとらず、リスクが顕在化したときにプロジェクト・チームが対処する。

問 10 プロジェクト遂行上のリスク事象を抽出，識別し，事象の発生確率とプロジェクトへの影響度から分類したリスク対応計画を立案する。リスク対策の考え方をまとめた表として，最も適切なものはどれか。ここで“予防対策”は“当該リスク事象の発生を未然に防ぐ”ための対策を意味し，“発生時対策”は“当該リスク事象が実際に発生したとき”の対策を意味し，“受容”は“当該リスクへの対策をとらない”ことを意味する。



ア

A：発生時対策	C：予防対策と発生時対策
B：予防対策	D：予防対策

イ

A：予防対策	C：予防対策と発生時対策
B：受容	D：受容

ウ

A：予防対策	C：予防対策と発生時対策
B：受容	D：発生時対策

エ

A：予防対策	C：発生時対策
B：予防対策	D：発生時対策

## ■ リスク対応

### ⑩リスクへの対応

H31-5

問5 JIS Q 21500:2018（プロジェクトマネジメントの手引）によれば、対象群“リスク”の活動内容のうち、プロセス“リスクへの対応”で実施するものはどれか。

- ア プロジェクトの混乱を最小限にするために、リスク対応の有効性を評価しながらのリスク対応の進捗をレビューする。
- イ プロジェクトの目標への脅威を軽減するために、プロジェクトの予算及びスケジュールに資源と活動を投入することによって、リスクを扱う。
- ウ プロジェクトのライフサイクルを通じて、プロジェクトの目標に影響を与えることがあるリスク事象及びその特性の決定を繰り返す。
- エ リスクの優先順位を定めるために、各リスクの発生確率及びそのリスクが発生した場合にプロジェクトの目標に及ぼす結果を推定する。

## ■ デルファイ法

### ⑪デルファイ法

H17-41

問41 現在の動向から未来を予測したり、システム分析に使用したりする手法であり、専門的知識や経験を有する人の直感や推量を生かし、アンケート調査によって集団の意思を対照させながら調査を繰り返して、意見を収束させる手法はどれか。

- |            |             |
|------------|-------------|
| ア 因果関係分析法  | イ クロスセクション法 |
| ウ 時系列回帰分析法 | エ デルファイ法    |

問13 プロジェクトのリスクを、デルファイ法を利用して抽出しているものはどれか。

- ア ステークホルダや経験豊富なプロジェクトマネージャといった専門家にインタビューし、回答を収集してリスクとしてまとめる。
- イ 複数のお互いに関係がないステークホルダやプロジェクトマネージャにアンケートを行い、その結果を要約する。さらに、要約結果を用いてアンケートを行い、結果を要約することを繰り返してリスクをまとめる。
- ウ プロジェクトチームのメンバに PMO のメンバやステークホルダを複数名加え、一堂に会して会議をし、リスクに対する意見を出し合い、進行役がリスクとしてまとめる。
- エ プロジェクトを強み、弱み、好機、脅威のそれぞれの観点及びその組合せで分析し、リスクをまとめる。